

式辞

春爛漫、桜花咲き誇り、
若葉の光も、一段とさわやかさを増し、
新入生のみなさんを、心から、歓迎してくれています。

早朝より、多数のご来賓のみな様、そして保護者のみな様のご臨席をいただき、
二〇一五年度、七一期生の入学式を挙行できますこと、
心から感謝し、厚くお礼申

しあげます。

さて、新入生のみなさん、
ご入学おめでとう。

今日から伝統ある住吉中
学校の生徒です。

今、壇上からみなさんの
顔を見ていると、どの人の
目も清らかに澄み、「さあや
るぞ」という強い意思が
伝わってきます。

その目が語っている
今のみなさんの心の姿を
「初心」と言います。

どうかその初心を大切に
しつかりと前を見つめて
中学校生活を始めてくださ
い。

本校入学を契機として、
新しい自分を探す旅の始ま
りです。中学の3年間を、
実りあるものにするために、
一日一日を大切に過ごして
欲しいと願っています。

そこで、入学に当たり
二つのことをお話ししたいと
思います。

一つ目は、不思議な竹のお話です。

中国には不思議な竹があるそうです。その竹は、農家の人たちが種を植え、肥料と水を与えて育てるそうです。

一年目は、何も起こりません。二年目も一生懸命、水と肥料を与え続けるのですが、芽すら出さず、土も膨らまず何の変化もありません。

三年目も四年目も何も起
こりません。

しかし、五年目のある
雨の日の明け方を境に、
突然成長を始め、
わずか六週間で
二十七メートルの高さに
まで成長します。

みなさんもこの竹に
似ています。みなさんの
将来にはいろいろなこと
が用意されています。

この竹のように

ある時期を境にすさまじい勢いで、みなさんの才能が花開く時期がきつとあります。

しかし、やってもやっても何も起こらない時期もあります。

目には見えませんが、その時こそ、地面の下では、将来の成長に備え、下へ下へと根を生やしているのです。

この根のことを昔の人は

「命の根」と言いました。

これから始まる中学校

時代は、みなさんの「命の根」をしつかりと下へ

伸ばす時期とも言えます。

「あなたの心の庭に忍耐を植えなさい。その根は苦いが、実は甘い」

という言葉があります。

これから始まる中学校生活は、楽しい事ばかりはありません。我慢したり耐えたりしなければ

ならないこともたくさんあります。

しかし、その時こそ、みなさんの「命の根」がしっかり伸びている

時だと自覚してくださいます。困難から逃げてばかり

いたらこの根は育ちません。せつかくのみなさんの才能も枯れてしまいます。

ある日を境にすさまじく成長するその時まで、忍耐と我慢という栄養を、

蓄える努力を続けて
ください。

2つ目は、君たちの顔が
ひとり一人、違うように、
考え方や、体つきも違って
います。

体の丈夫な人・障害のある
人・力の強い人・弱い人、
いろいろな、
個性のある人が集まって、
学習するところが、
この住吉中学校です。
相手のことを考え、

行動できる生徒に育ってほしいと願っています。

「互いの個性を尊重し、違いを認め合う集団」をつくりましよう。

今日からみなさんは「人にやさしい学校、人にやさしい心」を育てるために、在校生のみなさんと、一緒に取り組んでいきましょう。

保護者のみな様、私は目標として「人にやさしい生徒・人にやさしい

住吉中学校」づくりを
目指し、積極的に取り
組んでまいります。

そして、本校職員と一丸
となって、学力の向上に努
めてまいります。

しかしこれは、保護者の
みな様のご協力なくしては
できません。

どうぞ、絶大なるご支援を
お願いいたします。

教育は、林業に似ていま
す。一年で、花や実のなる

農業とは違い、一〇年先、
二〇年先になるかは個人に
より違いがあります。

まっすぐ立派な木として成
長することを願う作業です。
学校・家庭・地域が一体と
なつて、子どもたちの心に
「わがまま」「自分勝手」と
いう横枝が生えてきたとき
は切り取り、堂々とした大
木になるよう、ともに育て
ていきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが
式辞といたします。

二〇一五年四月四日

大阪市立住吉中学校
校長 村瀬香織